



ジュズサンゴ *Rivina humilis* ヤマゴボウ科

名古屋大学博物館友の会 NUM 友の会ニュースレター No. 80 2025 年秋号

書面総会の結果のお知らせ

2025 年度の書面総会の結果をお知らせします。

賛成 98 反対 1 保留 2

会員のご意見（無記名もあり）

- ・ NUM 友の会ニュースレターをいつも楽しんでいます。
MS MY TS KM KT MJ MS MM AS
- ・ ボタニカルアート教室に通っていますが、駐車料金が
高く大変です。以前は補助がありましたが、3 時間は
おりますので月謝よりはるかに高額になります。ご検
討をお願いします。KM
- ・ 時々、ウエビナーに参加しています。又博物館に伺い
たいです。HM
- ・ いつも自然科学を中心にいろいろな催しものをあり
がとうございます。この 1~2 年、看病生活で参加でき
ずにいますが、野外観察園には時折散策に行きます。MK
- ・ 事務局の皆様、ありがとうございます。TS KK
- ・ 猛暑で行動も鈍りがちですが、今年もまた企画展やガ
ャラリートークに出かけたいので宜しく。KM
- ・ ニュースレター楽しみ。写真も目の保養になります。
- ・ 大場先生の「発光生物の話」を博物館で聴きました。
冬と海辺という生物にとって厳しい環境に光るミミズ
が生息していることにとても興味を持ちました。11 月
になったら光るミミズを探してみたいと思います。IY
- ・ ボタニカルアートサークルの作品展は狭いところで
よいので博物館の中で展示できるとアクセスも良く大
勢の方に見ていただけるのでは？ SA MF IT
- ・ 何度も行った植物園、花や実や大木、そして観察会に
行きたいです。ここ数年夫の介護で出られませんが、植
物画のカレンダーに癒されて過ごしています。MK
- ・ 名大博物館らしい記事、講座、講演、展示や展覧会、
いつも楽しみにして参加できるものはできるだけ行く
ようにしています。植物画に興味があり、ボタニカルア

ートも始めました。KY

- ・ 畑では梅が豊作で 170kg 収穫し、うち 24kg はジャム
にして配りました。色も香りも良い出来です。IY
- ・ 入会してかなり経ちますが、行事にほとんど参加して
いないので一度何かに参加したいです。CY
- ・ 夫が高齢で体調を崩しがちで病院やデイケアの付き
添いで時間を取られますが、立体木彫りや書道（来月は
毎日書道展）など自分なりに頑張っています。香川へ二
人で墓参に行きます。II
- ・ ギャラリートークを楽しみにしています。KH
- ・ ボタニカルアートの世話人の方にはお世話になって
います。毎回楽しく参加でき感謝しています。
- ・ 面白い企画をこれからも期待しています。ST
- ・ 昨年入会した卒業生です。現在名古屋市内の公園と緑
地の 2 か所で観察会を行っています。博物館のその時々
の展示をワクワクしながら見ています。年度初めには
全員の顔合わせをして 1 年の計画などを討議してほし
いです。WT
- ・ 自然科学の魅力を分かりやすく伝える味わい深い読
み物ばかりで次号が楽しみです
- ・ 会員の方の発表が楽しみです。SM
- ・ 10 月 11 月の博物館講座にぜひ行きたいです。MM
- ・ 博物館のチラシやパンフレットに「友の会会員募集」
と入れてほしい。IT
- ・ 10/18 のホームカミングデーに行きます。HS
- ・ 84 歳で体力も弱りなかなか参加できず残念です。WM
- ・ 貴重な勉学の機会となっています。見事な写真の数々
も驚きです。AT
- ・ 会員限定企画を進めるために企画委員を募集しては
いかがでしょうか。
- ・ 表紙と裏面の季節の植物写真に目を奪われます。写真
サークルの「柳」見事です。NM

万葉の花 17

ギシギシ

三矢保永

みち へ いちし
路の^{みち}辺の 壺師の花の いちしろく 人皆知りぬ
我が恋妻を

柿本人麻呂 万葉集卷十一 2480

大意 道端の壺師の花のように、はっきりと皆が知ってしまった、私が恋慕っている妻を。

注 “いちしろく” 明らかにの意味で、“いち” は接頭語。壺師には、古来より諸説があります。植物学の泰斗牧野富太郎が、条件付きの仮説として曼珠沙華を発表し、条件が叶うとされた以降はヒガンバナが優位ようです。しかし矛盾点もあります。“いち” が接頭語とすると、元来は“し”の一語の名で、身近な基本日常語とみなされる（木、葉、根、芽と同様）、暗示されている白い色と相容れない、“し” はギシギシの上代語とされる、など。緑溢れる初夏に、屹立した老翁を思わせる褐色の立姿には、美しさはないが圧倒的な存在感があります。ここではあえて、ギシギシを採用しました。漢字で書くと“羊蹄”。面白いことに北海道の羊蹄山はかつては後方（しりべ）羊蹄（し）山と呼ばれました。由緒ある山名が「ぎしぎしやま」では、いささか不憫です。



撮影 写真サークル 三矢保永
撮影地 天白区

参考文献：木下武司 和漢古典植物名精解 和泉書院

会員随想

矢並町の弾薬庫跡と木箱

山田富久

陸軍の弾薬を疎開する目的で、戦時中に豊田市矢並町で横穴が 30 数ヶ所掘られた。およその位置は、9 年前のある方の調査地図で分かるが、それだけでは現地を特定できない。矢並湿地で出会った天野さんが覚えていた横穴 2 ケ所を、2024 年 10 月に訪ねた。

矢並小学校付近の民家脇の横穴の位置はすぐに分かったが、崩落して陥没状態となっていた。怪しい人物がウロウロしていると女性が家から出てきた。事情を聞くと、陥没は 1974 年の七夕豪雨でできたもので、地下壕のあった位置で間違いなかった。穴は「コ」の字型なので、近くにもう一ヶ所出入口があるはずだが、見つけることはできなかった。

別の横穴は峠近くだ。そこは小さな川に近く鬱蒼とした藪のため、何が何だかよく分からない。1 時間以上探したが、陥没らしきものの以外何も見つからなかった。

帰宅後、天野さんに結果を報告すると、「穴はもうないわな～。でも弾薬の木箱は田圃で使っていたから、どこかに残ってるかもしれん」との新たな話。残念ながら、木箱は残っていなかった。諦めきれず、後日改めて峠近くの位置を電話で何うと、40 年振りだが「現地を案内してやろう」と腰を上げてくれた。

3 ヶ月後の今年 1 月に 2 人で横穴を探したが、道路を通す際この辺りの地形が改変され、天野さんの記憶と一致しない様子。それでも横穴の位置は何とか特定できた。前回見つけた陥没である。コの字型のもう一ヶ所あるはずの出入口を探したが見つからず、埋没したものと思われた。

矢並町は粗目の花崗岩地帯で、そのことを話題にしていると、「花崗岩は硬いので、ツルハシの頭部は小ぶりで柄が短い、見たことがあるか」と天野さん。自宅にあるというので、拝見しに行くことになった。その道すがら、成果が少ないと気遣ってくれた天野さんが「そういえば、〇〇ちゃんの所に、弾薬箱があるかもしれないので、寄ってみよう」ということになった。余程、僕がガッカリした表情だったのかもしれない。

幸運にも、踏み台に使われている木箱が 2 つ見つかった。しかし残念ながら、木箱に文字は書かれていなかった。（続く）

Artist Earth 地球は芸術家 30

ウルル (Uluru)

足立 守

写真上はオーストラリア大陸の“へそ”として有名なウルルです。ウルル (Uluru) は長い間エアーズロック (Ayers Rock) と呼ばれてきましたが、この場所が先住民アボリジニーの聖地だったことから現在はウルルと呼ばれています。

ウルルは高さ 335m の低い山 (標高は 868m) です。遠くからはただの一枚岩に見えますが、近づくと山体の表面には櫛の歯のようなきれいな縞模様があることがよく分かります。この縦縞はウルルを作っている砂岩の地層面の凹凸で、約 5 億年前に海底でほぼ水平に堆積した粗粒砂岩 (タービダイト) の地層が地殻変動によって大きく傾きほぼ垂直になっていることを示しています。大規模な地殻変動がなければ、ウルルの地層はアメリカのグランドキャニオンのようにほぼ水平のはずです。

オーストラリアの地質学者は、ウルルの砂岩層は約 30km 北西にあるカタ・ジュータ (写真下、旧名オルガ山) の礫岩層と大きな向斜構造を作って地下でつながっていると考えています (断面図)。

ウルルは数 100 万年以上前に現在の姿になったという説もありますが、オーストラリアの内陸部は昔からずっと今のような砂漠環境ではなく、河川によって山地が削られた時期もありました。長年の侵食作用により現在の姿になって残っている点で、成因的に濃尾平野東部にポツンと存在するチャートでできた小牧山と同じです。ずいぶん昔の話になりますが、愛教大の集中講義で「オーストラリアのエアーズロックは小牧山と同じようなもの」と“山のでき方”の話をしたところ、夏休みにエアーズロックへ行く計画を立てていた女子学生から「幻滅!」という声が聞こえてきました。

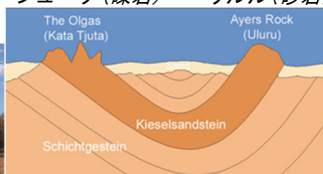


ウルル (エアーズロック) wikipedia より

カタ・ジュータ (礫岩) ウルル (砂岩)



カタ・ジュータ 礫岩層



断面図

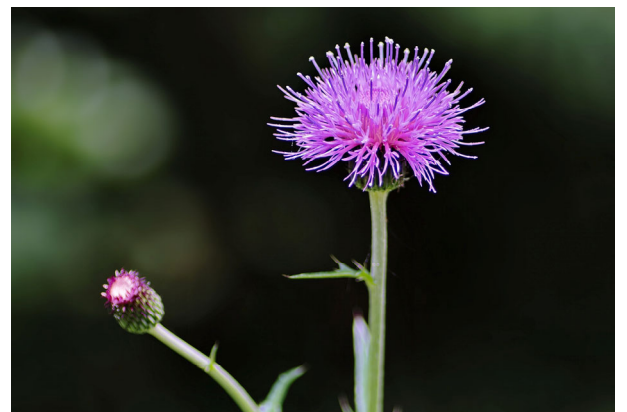
豊田市 ささゆりの里 撮影会

写真サークル 市枝真木子

写真サークルでは、2 回/年の撮影会を開催しています。今年の前期の撮影会として、豊田市ささゆりの里を選びました。豊田市松嶺町の地元有志「松嶺ささゆり保存会」の方々が長い間丹精込めて手入れされている約 2.2km の散策路に沿って、ササユリが見られるとのこと。保存会に開花情報を確認して、6 月 8 日に実施しました。現地に着くなり、うぐいすの鳴き声が出迎えてくれて、さっそく感動! 本当に緑豊かな里山でお目当ての「ササユリ」もあっちこちに淡いピンクや白の可憐な姿を見せてくれます。しかし期待していたほどの群生は見られなかったのが、地元の方にお聞きすると、鹿がイノシシ対策のフェンスを飛び越えて大切な花の蕾を食べてしまったそうです。ささゆり保存会の方々のご苦労が偲ばれます。今回もう一つの収穫は濃い紫色の大きめのアザミがあちこち美しく咲いていたことです。またスモークツリー (煙の木) という珍しい不思議な木もありました。皆思い思いにゆっくり撮影し、滞在時間はなんと 4 時間も? 帰りは思いがけず地元産の新鮮な筍と人参をゲット! 久しぶりのタケノコ料理に舌鼓を打ちました。



ササユリ 写真サークル 市枝真木子



ノアザミ 写真サークル 梅原誠人

野外観察園 2025 秋

吉野奈津子

季節外れにセッコクが咲くのは毎度のことですが、今年は 9 月にコブシが咲いて驚きました。やっと涼しくなり元気が出てきたのは人間だけではありません。雑草も元気になるし、蚊が日中も活動するので嚴重に蚊対策をしなければひどい目に遭います。枯れるかな、という状態でも少々水をもらえれば見事復活できるのが雑草のたくましい所。この雑草魂、実験に使う植物に分けていただきたいと思います。

実験植物と言えばセンダングサたち。「くつつき虫」と呼ばれるいわゆる雑草ですが、西田研究室の I 君が 4 種類集めて 3 年間研究に使いました。今年 3 月に卒業し彼はいませんが、今年はこぼれ種のセンダングサたちがあちこちで元気に育っています。実験ではポットで育てるためかうまく育たない年もありました。特に日本在来のセンダングサは他のものに比べてデリケートで手を焼きました。なのに、今年は一番育たなかったセンダングサがあちこちで元気に育っています。実験という管理から解放された結果でしょうか・・・2 年前こうあって欲しかったなと思うとともに I 君元気にしているかなと生えすぎたセンダングサたちを抜くたびに思い出します。

日本在来のセンダングサ、最近では滅多に見られなくなっています。私も今回初めて実物を見ました。

大学内ではコセンダングサが多かったのですが、近年コバノセンダングサというものが増えてきたように感じます。圧倒的に数が多いのは豆の形をしたアレチヌスビトハギです。ほか色々な種類がありますがよく見かけるものには外来種が多いです。

お散歩でくつつき虫が服についてくることもあります。取った時にはゴミ箱へ。安易に道ばたに捨てると植物たちの思惑通り、生育地を広げることになるのでご注意ください。



センダングサ *Bidens biternate* キク科
〈花〉



〈果実〉



クレロデンドラム *Clerodendrum* sp. シソ科



カラスノゴマ *Corchoropsis crenata* アオイ科

名古屋大学博物館友の会ニュースレター 2025 年 10 月 20 日発行

名古屋大学博物館友の会 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学博物館 気付

電話：052-789-5767 (博物館事務室) F A X : 052-789-5896 (博物館事務室)

Eメール：hakubututomo@gmail.com アクセス：地下鉄名城線「名古屋大学」下車 2 番出口

ホームページ：http://www.num.nagoya-u.ac.jp/fan

年会費 1000 円 (4/1～3/31) 10/1～3/31 に入会した場合は 500 円 (次年度は 1000 円)

家族会員制度あり (同居の家族 1 名まで年会費を免除)

〈振込先〉 ゆうちょ銀行 口座番号：00800-8-166807 加入者名：名古屋大学博物館友の会

他銀行からの振り込み 店名〇八九 (ゼロハチキュウ) 店番 (089) 当座 0166807